

一般財団法人置賜地域地場産業センター

令和7年度 事業計画

自 令和7年4月 1日
至 令和8年3月31日

地場産業振興センターとしての役割である地場産業の振興を基本として、地域の多様な資源を活用した商品発掘と販売、情報発信を担う「地域商社」機能を発揮し、ものづくり人材育成、ふるさと納税を活用した地域特産品等のPRと販売、6次産業化の推進による新たな地域資源の創出を図る。

併せて、一般社団法人やまがたアルカディア観光局と連携し、観光まつり事業を実施する長井市観光協会としても観光振興を通じた交流人口の増加につながる事業に取り組む。

観光交流センター「道の駅 川のみなと長井」は、令和5年度から5年間、引き続き指定管理者の指定を受け、農産物、観光資源などの地域資源を発信する長井市の玄関口として管理運営にあたる。観光交流の拠点施設として観光インフォメーション機能の充実に努めていく。また、中心市街地に位置する「菜なポート」との共同催事を企画し、まちなかへの誘導の基点としての機能を一層発揮できるよう取り組む。物産販売においては、6次産業化をさらに進め、新商品の発掘・開発により商品構成の充実を図る。直売は、「菜なポート」と2店舗運営として、新規生産者の受け入れを行うとともに生産者の組織化によって、生産と販売の連携を推進する体制を強化し、農業者及び事業者の所得向上を図る。

「菜なポート」は、まちなか住民のライフラインとしての役割を引き続き担い、「家庭の冷蔵庫」として農産物・加工品に加え鮮魚、精肉等の生鮮品の品揃えをより一層充実していく。

長井市遊びと学びの交流施設「くるんと」内で営業している「くるんとカフェ(ドトールコーヒーショップ長井くるんと店)」は、地域との繋がりを深めながらお客様に選ばれる店づくりを目指し、「くるんと」来館者への飲食サービス提供による施設の魅力アップを図っていく。

東京事務所を活用した首都圏での販路拡大事業は、長井市及びふるさと長井会などとも連携して進める。

ふるさと納税事業は、引き続き長井市はじめ関係部門と緊密な連携を取り、全体的な業務体制を見直しつつ、市内業者・農家と一体となった新たなお礼品の企画、地域資源の掘り起こしを通して長井市で掲げた目標を達成できるよう取り組む。

インキュベーション施設であるイノベーションLab. 長井i-bayは、個室利用者だけでなく共有スペース利用者増を図り、起業創業を目指す方々が集い、情報交換が行われる場を創造することで起業創業を支援する。

タスパークホテル長井再整備事業では、改修未着手である6Fを含む次期改修に必要な戦略を構築するため、有識者等の知見をお借りし、検討していく。

1. 人材育成事業

地域における人材の育成、技術力の向上、産業交流による地域活性化を図ることを目的に、継続事業の実施と新たな事業展開を図る。地域企業者、教育機関等との産学官連携を図り、ネットワークの拡大と地域への波及効果を上げる取り組みを進める。

また、小中学生を対象としてもものづくりの楽しさと科学技術への理解を深める事業も継続する。

(1) 置賜ものづくり地域創生支援事業(山形県・長井市補助事業)

地域において産業を支える若手技術者や次世代ものづくり人材の育成及び産学連携の促進によるものづくり技術力の向上を推進していく。また、従来行ってきた少年少女ロボットセミナー等は、単発的なものから複数開催による継続性のある内容に見直しを検討し、長期的な視点で人材育成を行うことを目指す。本年度から、県及び市からの補助額上限が縮小したことを受け、事業内容、事業数を見直す。

○目標実施事業数 4事業(令和6年度実績 4事業)

(2) マイクロマウス技術普及啓蒙事業

当センターの特徴的な事業であるマイクロマウスを通じた人材育成事業については、(公財)ニューテクノロジー振興財団、マイクロマウス委員会東北支部との連携を図り、また、置賜地域の地元企業の協力を得ながら、マイクロマウスの普及と関連事業の継続発展を目指す。大会においては、東北地区大会はもとより、他支部大会への参加も視野に入れ、地元マウスのレベルアップを目指す。

① マイクロマウス東北地区大会

東北地区に限らず全国のトップレベルが集う大会を目指して関係者に働きかけを行い、日本各地から数多くの参加を得る。意欲ある地元製作者への支援を行い、長井の産業を支える人材の育成と地域のPRを積極的に行う。また、次世代のプログラミング技術者育成の観点および地元の学生の積極的参加を促すために、「ロボトレース」競技を継続開催していく。

- ・開催期日 令和7年10月上旬頃
- ・会場 タスパークホテル長井2階 バンケットホール「つむぎ」
コンベンションホール「あいば」
- ・競技部門 クラシックマウス競技
マイクロマウス競技
ロボトレース競技

② ナガレンジャー・ファイティングフェスタ

技術者によるロボワンやパイプロボコン等の競技会実施に留まらず、一般来場者向けに多様なロボット・技術の体験と学びの場を提供して、将来のものづくり人材創出を図る。

- ・開催期日 令和7年10月上旬頃
- ・会場 タスパークホテル長井2階バンケットホール「つむぎ」

2. 地域活性化事業

タスパークホテル長井を活用して、地域の活性化に資する事業を施設入居団体と連携して実施していく。

(1) 書き初め大会、ながい雪灯り回廊事業、けん玉普及事業

書き初め大会はお正月の行事として市内書道塾の協力の下実施する。また、近年の中学生の参加者増加に伴い、特別賞を小学生の部と中学生の部に分けて審査する形式で継続していく。

雪灯り回廊事業は、市内各商店街を主要会場とした雪灯り回廊まつりに呼応し、タスパークホテル入居団体が協力して施設周辺にランタンを製作することでまつりを盛り上げる。

けん玉普及事業は、けん玉の魅力PRに努めるとともに、けん玉協会長井支部、山形工房、及び教育機関と連携し、けん玉ペインティングコンテストを引き続き実施する。

(2) ながい産業博開催事業(共催)

長井商工会議所が主催するながい産業博の共催団体として、商工会議所各部会、西置賜産業会等で構成する実行委員会に参画する。i-bayの入居者に積極的な出展を呼びかけ、i-bayのPRを図る(令和6年度実績1社)。事業実施にあたっては、道の駅「川のみなと長井」・市民直売所菜なポートとも連携した取り組みを行う。

3. 情報発信事業

(1) 地域情報発信事業

置賜地域(主に長井市)のイベント・観光、地場産品に関する情報をSNSを通じて定期的に発信していく。

○目標情報提供数

- ・SNS (Facebook、X、instagram) での発信 週3回程度
- ・メールマガジン発行 月2回

(2) ながいファン倶楽部運営事業

長井を訪れる観光客の増加を目指すため観光やイベント、物に加え、この地で暮らす楽しさや醍醐味など、「人」や「場所」に関わる「魅力ある長井」を積極的に紹介していく。

○目標会員数 3,500人(R7.2月末実績 3,475人)

4. 需要開拓事業

(1) 特産物普及振興事業

① ふるさとショッピング事業

年3回、地場産品の通販チラシを作成・郵送し(対象約850人)、長井の果物・特産品などを全国の方にPR・販売していく。商品に関する生産のプロセスや作り手の思いなども含めてSNSで積極的に発信し、昨今の通販のデジタル化の流れを鑑み、従来の受注方法を見直し、より効率的・効果的な形式で受注できるような手法を検討していく。

○目標売上金額 8,500千円(R7.2月末実績 7,476千円)

②ふるさと納税関係事業

ふるさと納税関係業務として、納税の受付、返礼品の発注、礼状の発送、証明書の発行や確定申告不要のワンストップ特例申請制度の一連作業を行っている。

令和5年10月の総務省制度改正により、「寄付額に占める経費」「地場産品基準」が厳格化され、これにより長井市においても各返礼品の寄付設定金額の値上げを余儀なくされた結果、寄付件数の減少につながった。

本年度は、市との契約形態および業務体制を見直し、これにより手数料や寄付設定金額の算定方式を変更することで、寄付設定金額の値下げ・適正化を図り、寄付件数の回復を目指す。また、引き続き取引業者のふるさと納税に対する理解や意識の向上を図り、業者と協力しながら、新たな返礼品の企画等に取り組んでいくほか、複数部門・関係者と連携した新規取引先の開拓を検討する。

また、業務フローの見直し・改善を常に追求し、より効率的に業務が行える体制づくりを引き続き進めていく。

○ふるさと納税返礼品受注目標 358,766千円
(R7.2月末実績 76,090件、257,751千円)

(2) 首都圏販路確立及び首都圏交流事業

① 東京事務所運営事業

長井市と連携して大田区との交流拡大に取り組むとともに、ふるさと長井会運営への協力を通して首都圏の長井市出身者との交流を深め、また会員宛に物販イベント周知や長井市でのイベント情報等をメール配信等で定期的にお知らせすることで、ふるさと長井への関心度を高めていき、物販売上拡大やイベント集客、長井市ふるさと納税への寄附申し込み増加につなげる。

また、大田区を中心とした催事での物販には積極的に取り組むことで、物産のPRと長井市の認知度向上を図る。

○目標情報発信数
*ブログ 週1回以上
*フェイスブック 週3回以上

② 大都市圏販路拡大事業

東京事務所の機能を最大限に生かし、大田区内に限らず要望のあるイベントへの出店について市内業者の協力を得ながら積極的に実施する。

MEGAドン・キホーテ 大森山王店の常設販売は、売れ筋商品を中心とした品揃えとして安定的な売上を上げるとともに、定期的に開催する「山形県フェア」を通じて、長井市PRと常設商品PRをし、売上増を目指す。

また、本年度より新たに「真誓会（経営者が集まりビジネスを発展する会）」蒲田エリア定例会（毎月第三月曜日プラザアペアにて開催）の物販コーナーに参加し、東京事務所内の商品の販売、長井市のPR、「BtoB」または「BtoC」の取引の架け橋活動を行う。

○目標物産販売出店回数及び金額 23回 3,500千円
(R7.2月末実績 7回 672千円)

5. 施設営業事業

施設の稼働率を高め施設全体の活性化を図るため、長井商工会議所及び長井市と三者共同体制で、施設の強みを生かしたコンベンション機能の充実を含め、官民を挙げた取り組みを目指す。また、施設の老朽化に伴い機械設備、消防保安設備の更新、修理など適切な対応が必要になっている。タス5団体の会議を定期的に開催して修理等の優先順位を検討した上で遅滞なく実施する。

6. インキュベーション施設(イノベーションLab. 長井 i-bay)

インキュベーションマネージャー協力のもと、個別相談等の入居者支援を行っていくとともに、入居期限等の理由により退所した入居者がいた場合は、必要に応じて退所後の支援等のサポートを検討する。また、施設内の環境整備等による魅力向上と、新規会員獲得に向けた施設の周知等の新たな取り組みを検討・実施していく。

○目標

* 入居者確保 個室ブースの満室化、共有スペース会員確保、入居者12名以上
(R7.2月末実績 11名(社))

* 創業支援 インキュベーションマネージャー個別相談 月1回(各入居者)

7. 長井市観光交流センター(道の駅「川のみなと長井」)運営

道の駅「川のみなと長井」の運営基本方針は、交流人口を活用し、産業振興のきっかけとすることである。観光交流センターが「楽しい出会いがあるところ」といったイメージを定着させ、「寄ってもらい、巡ってもらうための地域に根付いた道の駅」を目指し、地域観光資源と地域住民の交流機会を創出して、観光交流の拠点としての役割を果たす。

本年度は、400万人来館達成見込み(6月頃)でもあり、これまでの感謝を込めた企画を実施する。また、川のみなと長井にしかない商品を出品者と共に開発すること。また、他地域の道の駅及び、各地の地場産センターとの物的交流を推進して商品力の強化を図り、お客様に対して新たな魅力ある商品と情報を提供する取り組みを積極的に実施していく。前年度、作柄の不作で未実施となる、サクランボ・西瓜・秋野菜等を切り口とした販促企画を本年度も計画する。

本年度も水陸両用車企画は中止の予定の為、外向けへの情報発信力を高める策として販促策の強化として電波媒体の活用・チラシ回数の増・情報紙への掲載・SNSの充実を目指す。

来店動機へのアプローチの強化としては『dポイント』を活用、並びに、固定客を重視する販促(回数の増)と不特定多数のお客様へのアプローチに分けた販促の実施。来店されたお客様にはより楽しんでいただくために、前年度の販売情報を活用して、時期に応じた商品構成や販売量、商品陳列・場所の変更など臨機応変に対応して、売り場・商品の活性化を行う。

やまがたアルカディア観光局と連携した取り組みも継続し、SNS等のソーシャルメディアを活用した情報発信の頻度を高め、新たな客層及び地域からの誘客に積極的に取り組んでいく。

○目標売上額 284,530千円(R7.2月末実績 257,302千円)

(1) 物産直売部門

① 物産部門

お客様に好評を得ている地元商品については、前年までの実績を基に取引先と密に連絡

を取り合い、欠品の無いよう準備をする。また、常にお客様のニーズに応じていくことでリピーターの確保に努め、新規取引先の開拓も積極的に行い、新商品・オリジナル商品など、お客様に飽きがないよう商品展開・売場づくりを行っていく。

それぞれの部門間で連携を密にとり、「おもてなしの心」を大切にしてお客様に喜んでいただくことができるよう接客し、安心してお買い物ができる店舗づくり・充実した品揃えを心掛け、季節感のあるディスプレイで、地元商品を中心に販売促進とPR（SNS等を活用し）に努めていく。

他の道の駅やフラワー都市交流地域の特産品を取扱い、交流の一環として展開していく

また、お客様に満足いただける『長井らしさ』『ここでしか買えない』商品開発について、地元の各出品者と協働で取り組む。

タスパークホテル長井キオスクへの商品供給・要望等への対応については、専任担当を配置しきめ細かに実施していく。

○目標売上額 97,795千円（R7.2月末実績 86,848千円）

② 直売部門

出品者協議会との連絡を密にし、新規登録者の受け入れを積極的に行う。又、各会員への情報提供（農作物の新品種の勉強会など）を通し、商品の量的拡大と品種の豊富さを目指す。また、本年度も11月に『収穫祭（顔の見える農産物）』を企画実施予定。収穫祭を通じ、地元出品者とその優れた農産物を身近に感じてもらうことで、出品者の所得向上と、固定客（ファン）の増加を目指す。出品者に対しては、高品質の地域農産物の品揃えと安定供給を維持させる努力をお願いし、安全・安心な商品・価格・規格等での密なコミュニケーションを図り売場の充実感を増す。販促媒体〈チラシ・SNS等〉の有効活用を積極的に実施し、農産品・加工品・食文化をはじめとする地域資源を、市民はもとより県内外の観光客に向けて発信・認知度を更に高めることに取り組む。接客時には、お客様のニーズに対応して特産品の説明やPRに努め、販売促進とファンづくりを目指す。

特に、伝統野菜に代表されるような地域性の強い商品の量的確保を目指す。

また、菜なポートとは、互いに必要な情報を共有し、多様な客層・ニーズに連携して対応する体制を継続していく。

○目標売上額 186,735千円（R7.2月末実績 170,454千円）

（2）フードコーナー

令和6年4月より、外部委託による食の提供に業態変更しており、引き続き『地産地消』の考え方を取り込んだ商品を提供して頂くように連絡を密にして進めていく。

○目標売上額 1,650千円（外部委託先からの手数料収入）

（3）まちづくり紹介コーナー

市内で芸術文化活動、地域づくり活動を行っている個人・団体等に呼びかけをし、より地域の方に情報を発信していく。また、やまがたアルカディア観光局、長井市観光協会と連携して、祭りや文化財などの紹介展示を行う。

○目標イベント開催回数 30回（R7.2月末実績 21回）

(4) 観光インフォメーション

観光インフォメーション機能は、やまがたアルカディア観光局、長井市観光協会が一体となって運営するとともに、黒獅子の里案内人と連携して観光客の街なか誘導に積極的に取り組む。また、観光情報発信の拠点として、市内観光含め広域観光案内機能の充実を図る。

8. 市民直売所菜なポート運営

市民直売所菜なポートは、「地域農業振興」「地域経済活動の活性化」を目的とし、「地元食材を通じた人的交流の場」の役割を担い、「家庭の冷蔵庫」として、市内は勿論、市外から、また老若男女問わず幅広い多くの消費者が来店される店舗作りを目指す。

本年度は、以下の項目を重点施策として、取込強化を図る。

- (1) 農産物・加工品に加え鮮魚・精肉・惣菜等の品揃えをさらに充実させ、消費者に満足していただける安全・安心な商品を提供することで集客力を高める。
 - ・出品者と常に情報交換を行い、今後の品揃えを相互に確認する。
 - ・消費者の声を出品者に、出品者の声を消費者に伝え、消費者と出品者の架け橋の役割を担う。
- (2) 本町商店街と連携してまちなかの活性化に寄与する。

併せて、地域の行催事に合せた売場展開を実施し、積極的に生活提案を行う。

 - ・本町商店街の総会・懇親会等の会合には積極的に参加し、情報を共有する。
 - ・10月青空フェスティバルイベントへの参加。
 - ・2月雪灯り回廊本町商店街イベントへの参加。
 - ・学校・地域行事を事前に把握し、消費者の欲する品揃えを実現する。
- (3) 職員の接客及び販売技術向上のため、指導・教育を強化し、売場の平準化を図り、消費者に喜んでいただける店舗づくりをする。
 - ・クオリティ・サービス・クリーンリネスの向上のためトレーニングやロールプレイングを実施する。
 - ・計画的にOJT教育を実施し、誰でも同レベルの接客・陳列・商品づくり等が出来るように教育する。
- (4) 観光交流センター「川のみなと長井」と連携し、地産地消・地域の食の情報発信拠点の一つとして、消費者・出品者双方の視点に立った運営を継続する。
 - ・4月「川のみなと長井周年祭」協賛イベントの実施。
 - ・8月「お盆市」「お盆祭り」協賛イベントの実施。
 - ・10月「菜なポート周年祭」協賛イベントの実施。
 - ・12月・1月「年末・初売り」協賛イベントの実施。
- (5) 市内産青果物・加工品の入荷量を増やすため出品者の新規登録を今後も進める。
 - ・出品者から出品者を紹介していただき、出品者の輪を広げる。
 - ・目標 令和7年度出品者協会会員数10名増。

○目標売上額 330,000千円 (R7.2月末実績 304,278千円)

9. くるんとカフェ(ドトールコーヒーショップ長井くるんと店)運営

フランチャイズ方式で長井市遊びと学びの交流施設「くるんと」内に店舗を構えるドトールコーヒーショップ長井くるんと店は、(株)ドトールコーヒーの掲げる経営理念『一杯のおいしいコーヒーを通じて、お客様にやすらぎと活力を提供する』並びに、ブランドスローガン『すべての今日を、支えていく。』を基軸にして、接客サービスや店舗環境のブラッシュアップ、ブランド価値の向上に取り組むとともに、「くるんと」来館者への飲食サービス提供による施設の魅力アップを図っていく。

本年度は、以下の項目を重点施策として、取込強化を図る。

(1) 地域との繋がりを深める

店内の営業のみに終始せず、「くるんと」施設内外で子ども向けイベントやコーヒー教室、外販などの催事を積極的に実施していき、ドトールの知名度・存在感を高めていくことでより多くの顧客接点を生み出していく。

(2) おもてなし力の強化

(株)ドトールコーヒーのコーヒー知識研修や接客コンテスト参加を通じて、スタッフ全体の接客スキル等の底上げを図り、「お客様に選ばれる店づくり」を目指していく。

○目標売上額 36,000千円 (R7.2月末実績 31,084千円)

10. デジタル地域通貨「ながいコイン」運営

長井市からの委託を受けて市内限定で利用可能なデジタル地域通貨「ながいコイン」を運営するに当たり、ながいコインカードの作成や必要な印刷物の作成、ながいコイン販売店からの現金の回収、システム提供者への入金手続きなどを行い、スマートシティ長井の実現に向けた取り組みを推進する。

11. 長井まちづくり基金

令和元年度末の基金残高は約87万円で、民間都市開発推進機構拠出分は、平成27年度で無くなった。これまでの助成報告書をまとめ公表する。また、基金残の運用を検討する。

【基金の状況】・令和6年度末基金残高(予定) 87万円

・残高内訳	民間都市開発推進機構拠出分	0円
	市及び市民・事業所拠出分	0円

12. 中心市街地活性化に関する事業

中心市街地整備推進機構として、中心市街地活性化協議会運営で商工会議所と連携するとともに、事業実施にあたっての具体的な係わり方について関係機関等と調整していく。

また、第2期長井市中心市街地活性化基本計画に「タスビル整備事業」が追加されたことにより、地元住民だけでなく、市外からの集客が期待でき、中心市街地への来訪者を増加させ賑わいの創出に繋げていく。

13. タスパークホテル長井の再整備に関する事業

令和3年度から令和5年度にかけては、産業振興と観光の拠点としての機能を最大限に発揮できるよう、国及び長井市の補助を受け、タスパークホテル1～5F、7～9Fのリノベーションを実施した。

本年度においても引き続き未改修となっている6F客室エリアを含む次期改修を、財源等を含めて検討していく。

14. 観光振興に関する事業

(1) 長井市観光協会事務局

コロナ禍を経て旅行者は新たな日常という認識を有し、自然やアクティビティーに対する需要の高まりを見せており、当地域特有の風景や文化の創造を発信しながら、持続可能な観光を目指す。

また、当市まつり事業での観光客の消費額拡大を目指し、観光産業が地域活性化へ繋がるよう地域住民との一体化により地域そのものの成長への好循環を生むことができるよう事業を推進していく。

本年度は、下記の事項について重要施策としての取り組み強化を図る。

① 地域により密着したまつり事業

- ・市民が楽しむ・市民参加による賑わい作りの推進

② 観光客の満足度

- ・滞在時間をより長く／食・体験の充実／四季を通じたりピート率向上
- ・地域の特色ある「食」や「物産」等地、地場産業への波及効果を高める

③ 観光サービス質の向上

- ・SNSを活用した定期情報発信の強化継続・人材育成／街なかの活性化
- ・地域ぐるみ型観光サービスの取り組みの推進

◆広域連携（誘客対策）の推進

首都圏をはじめ隣接県、訪日外国人観光客の誘致促進と受入体制の整備について、置賜地域内の情報共有に努め、連携した取り組みを更に強化した事業推進を図る。

◆観光協会組織強化・人材育成強化

会員事業所様の観光に対する意識の向上図り、ご支援を頂きながら地域経済への波及効果を高めるため、更なる会員増強を目指した事業展開と人材育成を強化する。

(2) まつり事業日程(予定)

◆花を中心とした事業

- ・置賜さくら回廊 期間／4月上旬～ ※4/10(木) 開幕セレモニー(長井市)
- ・白つつじまつり 期間／5月10日(土)～31(土)
- ・あやめまつり 期間／6月10日(火)～7月6日(日)

※食の祭典は今後あやめまつりへ事業統合し、実施内容検討

- ・長井おどり大パレード 期日／7月 5日(土) 【第14回】

※従来の7月第一土曜日／開催場所については検討中

◆伝統と資源を活かした事業

- ・ながい黒獅子まつり 期日／5月24日(土) 【第35回】
- ・ながい水まつり 期日／8月 2日(土) 【第30回】

(3) 観光宣伝と観光客誘致事業

やまがたアルカディア観光局との取り組みをより推進しながら、まつり事業の充実を図り、当地域独特の観光資源を活かしたイベントの磨き上げ、滞在型交流人口増加に向けた受入態勢の進展に努める。

また、SNSの活用を更に強化し、定期的な情報提供と情報の一元化に努め、総合的な観光案内業務の取り組みについても共有を図る。

- ・広報物作成

長井市総合パンフレット／観光誘客ポスター作製（長井を外部の方に知って頂く工夫）

- ・観光誘客

置賜さくら回廊観光推進会議、置賜地域インバウンド促進会議と連携したアプローチと情報共有に努める。

インバウンド事業についても回復傾向にあり、今後においては、旅行商品造成も更に進展していくことから観光交流の基盤の回復に向けた取り組みを実践していく。

- ・都市交流

フラワー都市交流総会への参加。

姉妹都市結城市での物産販売において、地域特産物の紹介と共に交流を深めながらより広くPRできる場として積極的に推進する。

(4) 観光美化推進事業

- ・長井市花いっぱい街づくり推進事業（愛称：花いっぱい運動）の実施において、当協会もまちなかの景観創造として「花の長井」の文字通り更なるイメージ向上を図る支援事業と、参加団体の活動の継続と今後への更なる奨励、また、より多くの市民参加の意欲高めるため、団体賞を授与し周知をより浸透させていく。

(5) 冬季観光推進事業

- ・ながい雪灯り回廊まつり 期日／令和8年2月7日(土) 【第23回】

やまがた冬のあった回廊キャンペーン実行委員会と置賜地域全体での広域連携を更に推進し周知拡大に努める。また、より多くの市民の皆様が参画できる体制を構築し、市民主体の手づくり感あふれるまつりとして地域の良さを全面にアピールし、各商店街や地域との連携を強め魅力の創出を推進する。

(6) 広域観光協議会への参画

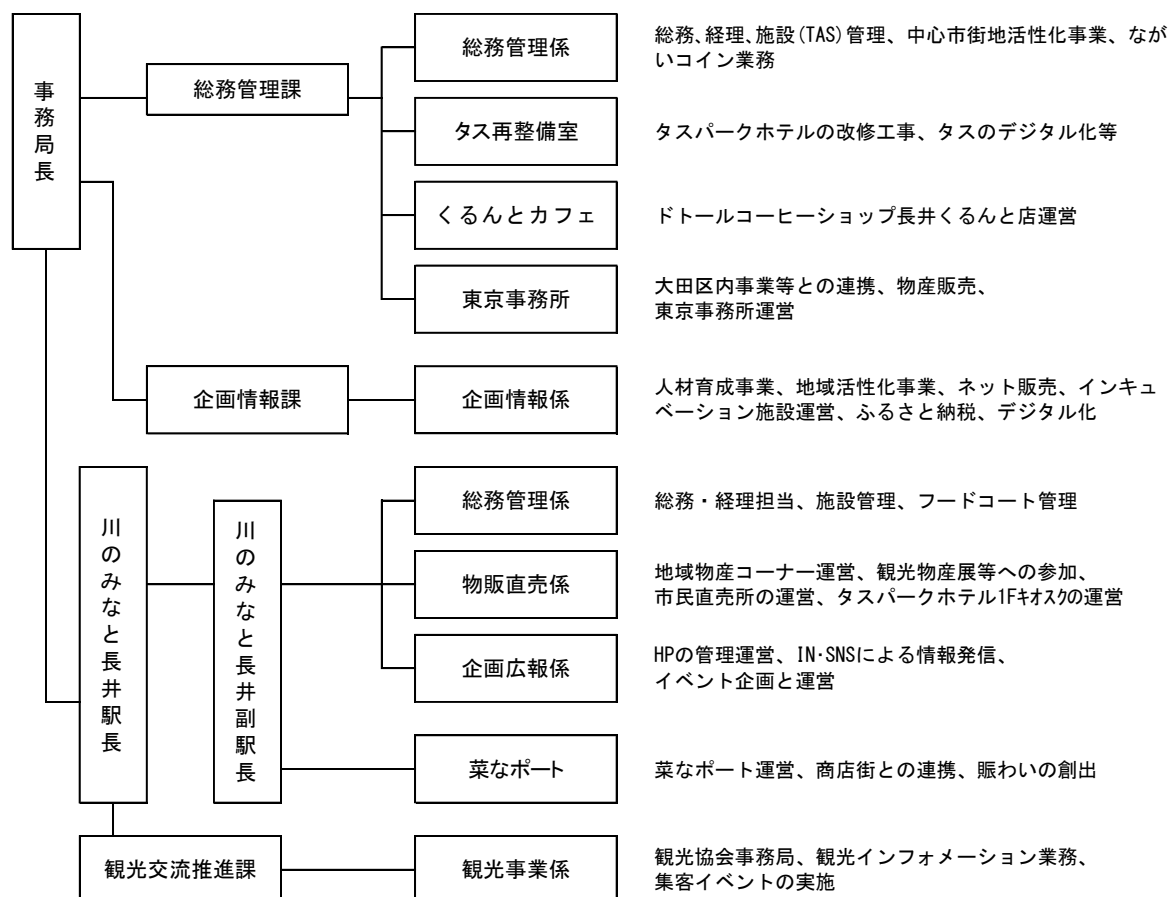
山形県及び置賜広域観光協議会に継続的に参画するとともに広域連携の体制整備の強化と情報交換・共有に努める。

15. 事務局組織

地場産業振興センターの事業所は、タスパークホテル長井内（総務管理課と企画情報課）、道の駅川のみなと長井、菜なポート、長井市遊びと学びの交流施設内（ドトールコーヒーショップ長井くると店）の4所に分かれての組織運営であることから、各事業所間の綿密な情報の共有と連携が重要な課題となる。

組織のガバナンス確保のため、部門毎に正規職員を配置するとともに、部門毎の定期的な調整会議と係長級以上による内部調整会議を都度開催して情報の共有と連携を図る。

令和7年度 事務局組織及び人事配置



《職員の内訳》

・常勤理事	1名
・総合職	6名
・専門職	8名
・市派遣	2名
・特任職	3名
・再雇用	3名
・定型スタッフ(無期)	5名
・〃(有期)	4名
・パートスタッフ	12名

計44名